



平成 26 年 8 月 26 日

(13 : 00 解禁)

独立行政法人国立科学博物館

フジカラー 写ルンです、カメラ付き携帯電話など 49 件の「重要科学技術史資料（愛称：未来技術遺産）」の登録と登録証授与式について

独立行政法人国立科学博物館（館長：林 良博）は、平成 20 年度から重要科学技術史資料（愛称：未来技術遺産）の登録を実施しています（別紙）。

平成 26 年度は、あらたに、マビカ試作機、フジカラー 写ルンです、カメラ付き携帯電話、エム・カテラ（M & KATERA）（IV型）など、49 件の重要科学技術史資料を登録することとなりました。今回の登録により合計 184 件の登録となります。

このたび、登録される資料の所有者をお招きして、登録証及び記念盾の授与式と、パネル展示を下記のとおり開催します。（9/2～9/7 は、一部実物資料も展示します。）

つきましては、ご広報いただきたくお願い申し上げます。

なお、授与式ご出席の際は、FAX または E-mail でご連絡いただけますようお願いいたします。

記

■「重要科学技術史資料」登録証及び記念盾授与式

期 日	平成 26 年 9 月 2 日（火）
会 場	国立科学博物館 日本館 2 階 講堂 東京都台東区上野公園 7-20
次 第	13:45～ 受付
	14:30 開式 国立科学博物館長挨拶
	14:40 登録証及び記念盾授与
	15:30 閉式（閉式後、集合写真撮影）

■パネル展示

期 日	9 月 2 日（火）～9 月 28 日（日） （一部実物資料展示は 9 月 2 日～9 月 7 日のみ。）
会 場	国立科学博物館 日本館 1 階 中央ホール

※ご希望の方には、登録資料のデジタル写真を提供します。（10 月末までご請求いただけます。）

本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館
産業技術史資料情報センター 担当：高江洲（たかえす）・亀井（参事）
〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1 国立科学博物館 筑波研究施設内
TEL: 029-853-8394(代表) FAX: 029-853-8492
E-mail: sts2006@kahaku.go.jp <http://sts.kahaku.go.jp/>



重要科学技術史資料 一覧

番号	写真例	名称	所有者	製作年
第00136号		NEAC-1210 — 「オフコン」の分野を切り開いたパラメトロン・コンピュータ —	日本電気株式会社	1966
第00137号		21型カラーテレビ (CV-2101) — 日本最初期の量産型カラーテレビ —	シャープ株式会社	1960
第00138号		日立カラーテレビ一号機21型 (CT150) — 日本最初期の量産型カラーテレビ —	(株)日立情映テック	1960
第00139号		電子システム手帳 (PA-7000) — 初めて漢字表示に対応した電子手帳 —	シャープ株式会社	1987
第00140号		リレー式プログラム機能付き計算機カシオ AL-1 — プログラム機能がついたリレー計算機 —	カシオ計算機株式会社	1962
第00141号		PR-1形超短波無線電話装置 — 国産初のFM方式超短波移動無線装置 —	警察庁	1950
第00142号		ポケットベル送信装置 (TC-11形送信装置、TC-15形送信装置、CE-15形A符号化装置) — どこでもつながる「ポケベル」を支えたインフラ —	日本電信電話株式会社	1968～ 1995



番号	写真例	名称	所有者	製作年
第00143号		508.6MHz、1.2MW 連続波クライストロン (E3732、T62) — 世界一安定で高出力の連続波クライストロン —	高エネルギー加速器研究機構	2002
第00144号		放送用進行波管 (1W50/M4803) — 日本中にテレビ電波を届けた電子管 —	東芝電子管デバイス株式会社	1964
第00145号		マビカ試作機 — 世界初の電子スチルカメラ —	ソニー株式会社	1981
第00146号		MW-171形ガスタービン (MW-171G) — 商用ガスタービンの第1号機 —	三菱重工業株式会社	1963
第00147号		巻線チップインダクタ LE SERIES M TYPE — 世界最初期の巻き線型チップコイル —	太陽誘電 (株)	1980~ 1986
第00148号		巻き線型チップコイル (TDK磁気シールド型チップインダクタ FCL 354531 Type) — 世界最初期の巻き線型チップコイル —	TDK 株式会社	1982~ 1993頃
第00149号		電気洗濯機 SW-53 — 日本初の噴流式電気洗濯機 —	パナソニック株式会社	1953
第00150号		胃壁のカラー撮影用ランプ — 世界初のカラー胃カメラ用電球 —	細瀬電球株式会社	1954



番号	写真例	名称	所有者	製作年
第00151号		Sonic Sheet Tester “ SST ” (SST-110) — 日本の独創となる製紙センシング技術 —	野村商事株式会社	1984
第00152号		G型テープレコーダー — 日本初のテープレコーダー —	ソニー株式会社	1950
第00153号		フジカラー 写ルンです — 世界のレンズ付きフィルム —	富士フイルム株式会社	1986
第00154号		航空機構造用プリプレグ — 軽量で強靱な複合材料 —	横浜ゴム株式会社	1978～ 1979
第00155号		固体ビデオカメラ (VK-C1000) — 世界初の家庭用固体イメージ・センサビデオカメラ —	茨城県	1981
第00156号		単管式ビデオカメラ (IK-12) — 世界初の家庭用単管式カラービデオカメラ —	株式会社 東芝	1974
第00157号		超小型カメラ (IK-M10A) — 世界初の親指サイズ・超小型カラービデオカメラ —	株式会社 東芝	1981
第00158号		立体ビデオカメラ (SK-3D7) — 世界初の複眼レンズ式 CCD 立体ビデオカメラ —	株式会社 東芝	1989
第00159号		コックピットカメラ (XC-1) — 世界初の実用 CCD カラービデオカメラ —	ソニー株式会社	1980

番号	写真例	名称	所有者	製作年
第00160号		VTR 一体型ビデオカメラ (BMC-100) — ビデオデッキとカメラを一体化 —	ソニー株式会社	1983
第00161号		8ミリビデオカメラ (CCD-V8) — 世界初のカメラ一体型8ミリビデオ —	ソニー株式会社	1985
第00162号		“パスポートサイズ”ビデオカメラ (CCD-TR55) — 超軽量化と超小型化を実現したビデオ —	ソニー株式会社	1989
第00163号		3板式ビデオカメラ (CCD-VX1) — 世界初の家庭用3板式CCDビデオカメラ —	ソニー株式会社	1992
第00164号		デジタルビデオカメラ (DCR-VX1000) — 世界初の家庭用DV方式デジタルビデオカメラ —	ソニー株式会社	1995
第00165号		ビデオカメラ ブレンビー (NV-S1) — 世界初の電子式手振れ補正ビデオカメラ —	パナソニック株式会社 AVCネットワークス社	1990
第00166号		デジタルビデオカメラ (NV-DJ1) — 高画質のデジタル映像記録DV規格ビデオカメラ —	パナソニック株式会社 AVCネットワークス社	1995
第00167号		液晶ビデオカメラ “液晶ビューカム” (VL-HL1) — 世界初の再生用4型液晶画面付ビデオカメラ —	シャープ株式会社	1992 前後
第00168号		カメラ付き携帯電話 (J-SH04) — ケイタイ初のモバイルカメラ搭載携帯電話 —	シャープ株式会社	2000

番号	写真例	名称	所有者	製作年
第00169号		VHS ビデオムービー (GR-C1) — 世界初のVHS-C方式VTR一体型ビデオカメラ —	株式会社 JVCケンウ ッド	1983
第00170号		リファクス600S — 世界初の事務用デジタルファクシミリ —	株式会社リ コー	1973～ 1980頃
第00171号		OKIFAX 7100 — 高速化と低価格を実現したデジタルファクシミリ —	株式会社 沖データ	1976
第00172号		ファクシミリ COPIX-440(COPIX 440A) — 世界初のインクジェット方式ファクシミリ —	株式会社 東芝	1974～ 1977頃
第00173号		66kV 単心675mm ² OF ケーブル — 電力需要を支える世界最高級性能の電力ケーブル —	東京電力株 式会社	1930
第00174号		275kV 単心1400mm ² CV ケーブル — 電力需要を支える世界最高級性能の電力ケーブル —	東京電力株 式会社	1988
第00175号		500kV CV ケーブル用押しモールド式接続部 (EMJ) — 電力需要を支える世界最高級性能の電力ケーブル —	東京電力株 式会社	1996
第00176号		66kV OFZN675mm ² ケーブル筒サンプル(東京電力 東 尾久変電所) — 電力需要を支える世界最高級性能の電力ケーブル —	住友電気工 業株式会社	1930
第00177号		275kV 2500mm ² 素線絶縁導体パイプタイプ OF ケーブ ル (POF) — 電力需要を支える世界最高級性能の電力ケーブル —	株式会社ビ スキャス	1983

番号	写真例	名称	所有者	製作年
第00178号		DC±500kV 1×3000mm ² 光複合半合成紙絶縁 OF 海底ケーブル (DC-WOFZEWA) — 電力需要を支える世界最高級性能の電力ケーブル —	株式会社ビ スキャス	1998
第00179号		DC±500kV 1×3000mm ² 光複合半合成紙絶縁 OF 海底ケーブル (DC-WOFZEWA) — 電力需要を支える世界最高級性能の電力ケーブル —	株式会社ビ スキャス	1998
第00180号		500kV 1×2500mm ² アルミ被ビニル防食架橋ポリエチレン絶縁ケーブル (CAZV) — 電力需要を支える世界最高級性能の電力ケーブル —	株式会社ビ スキャス	1996～ 1999
第00181号		500kV 1×2500mm ² 半合成紙アルミ被ビニル防食 OF ケーブル (OFAZV) — 電力需要を支える世界最高級性能の電力ケーブル —	株式会社ビ スキャス	1987
第00182号		500kV 1×2500mm ² アルミ被ビニル防食架橋ポリエチレン絶縁ケーブル (CAZV) — 電力需要を支える世界最高級性能の電力ケーブル —	株式会社ビ スキャス	1996～ 1999
第00183号		直流±500kV 3000mm ² PPLP 絶縁 OF ケーブル (関西電力、電源開発 紀伊水道連系線) — 電力需要を支える世界最高級性能の電力ケーブル —	株式会社フ ジクラ	1998
第00184号		エム・カテラ (M & KATERA) (IV型) — 日本の光学顕微鏡近代化の幕開け —	サクラファ インテック ジャパン株 式会社	1914



1. 重要科学技術史資料（未来技術遺産※）の登録制度とは

国立科学博物館では、「科学技術の発達史上重要な成果を示し、次世代に継承していく上で重要な意義を持つ科学技術史資料」及び「国民生活、経済、社会、文化の在り方に顕著な影響を与えた科学技術史資料」の保存と活用を図るために、関係する工業会及び学協会と協力して、調査研究活動を従来から行ってまいりました。これらの資料は、近年の科学技術の急速な発展、技術革新や産業構造の変化の中でその本来の意義が見失われ、急速に失われようとしています。国立科学博物館では、このような資料の保存を図るとともに、科学技術を担ってきた先人たちの経験を次世代に継承していくことを目的として、重要科学技術史資料の登録制度を平成20年度より実施しており、これまでに135件の資料を登録し、今回新たに49件の資料を登録いたします。

※未来技術遺産（愛称）：過去の科学技術史資料のうち未来へ引き継ぐべき遺産として名づけた愛称。

2. 登録制度の内容

- 台帳への登録及び登録証等の交付：国立科学博物館の『重要科学技術史資料登録台帳』に登録するとともに、所有者に国立科学博物館から重要科学技術史資料として登録されたことを示す登録証及び記念盾（別紙1参照）を交付します。
- 現状変更等の連絡：所有者から登録資料の移動・破損等の状況等について連絡を受け、資料の状況についてできる限り記録します。また、国立科学博物館から定期的に現状の確認を行うことなどによって、できるだけ多くの資料の散逸を防ぎます。
- 情報の公開：登録台帳を作成するとともに、国立科学博物館ホームページ上において、重要科学技術史資料に関する情報の公開を行います。（個人情報等は除く。）
- パネル展示の実施：重要科学技術史資料を紹介するパネル展示を行います。

3. 登録制度の特徴

国立科学博物館が行う重要科学技術史資料登録制度は、日本の全科学技術を対象とし、資料の保存とその活用を図ることを目的としています。

また、この活動は、国立科学博物館で平成9年以来行ってきた産業技術史資料の所在調査や、経常的に行われている科学技術史・産業技術史研究の成果を基盤として行われています。

さらに、重要科学技術史資料に登録されると、資料の保管場所等が変更されるつど、所有者は国立科学博物館にご連絡いただく一方、国立科学博物館では定期的に資料の状況を確認するなどのアフターケアを行います。



【参考】

1. 登録までの流れ（別紙2及び3参照）

今回の重要科学技術史資料の登録は、国立科学博物館で行っている産業技術史資料の所在調査によって得られた情報（平成25年度末現在、電子機械・化学工業など184分野、13,615件）の中から、具体的にテレビ・ビデオカメラ・電力ケーブル技術といった19の個別の技術分野を選定して、技術の歴史的な経緯を整理する系統化研究を行ったうえで、登録候補として全49件を選出しました。その後、外部有識者によって構成される重要科学技術史資料登録委員会（委員長：末松安晴）における審議結果を踏まえて、最終決定に至りました。

2. 登録制度の今後について

国立科学博物館では、今後も引き続いて、液晶ディスプレイ技術・炭素繊維技術・油圧ショベル技術等の個別の技術分野を対象に、継続して重要科学技術史資料の登録を行います。また、すでに登録された重要科学技術史資料については、資料の状況を定期的に確認いたします。

こうした活動を通じて、未来に残すべき科学技術史資料の保存をはかるとともに、広く一般に対して科学技術史資料についての理解を促進していきます。

3. 国立科学博物館 産業技術史資料情報センターとは

産業技術史資料情報センターは、技術分野ごとに関連する工業会と協力して、「産業技術史資料の所在調査」を行っています。また、産業技術と社会・経済・文化とのかかわりを研究する「技術の系統化研究」などの調査研究を行っています。

さらに産業技術史資料情報センターでは、重要科学技術史資料の登録制度を運営し、『重要科学技術史資料台帳』を作成するとともに、継続して登録された重要科学技術史資料のアフターケアを行います。

その他にも、産業技術系博物館と連携した活動や、産業技術史をテーマにした展示や学習支援活動を行っています。



重要科学技術史資料登録証

見本(表)

重要科学技術史資料
Essential Historical Material for Science and Technology

登録証
Certificate of Registration

名 稱 特別高圧油入変圧器 (13.2kV、100kVA)

登録年月日 平成20年10月9日

登録番号 第00001号

重要科学技術史資料として登録されたことを証します。

 国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

表

見本(裏)

所有者の氏名または名称	株式会社 東芝 執行役員 電力流通・産業システム社長 北村秀夫
所有者の住所	東京都港区芝浦一丁目1番1号
資料の所在地	神奈川県横浜市鶴見区江戸崎町4番1号 東京電力株式会社 電気の史料館
受付または再交付の年月日	平成20年10月9日

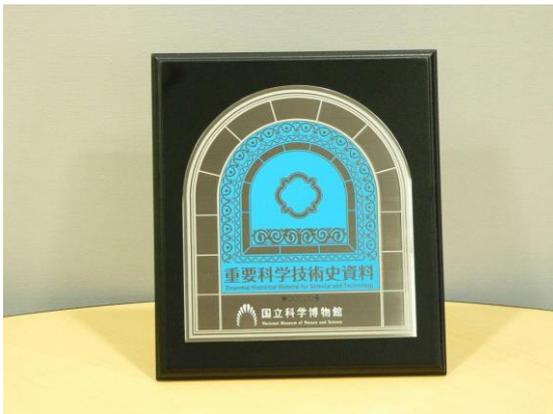
変更等年月日	変更等内容

備 考

- 次の場合には、この登録証を添えて届け出てください。
- 1 所有者が変わったとき。
 - 2 所有者の氏名もしくは名称又は住所を変更したとき。
 - 3 資料に破損・滅失、変更などがあった場合。

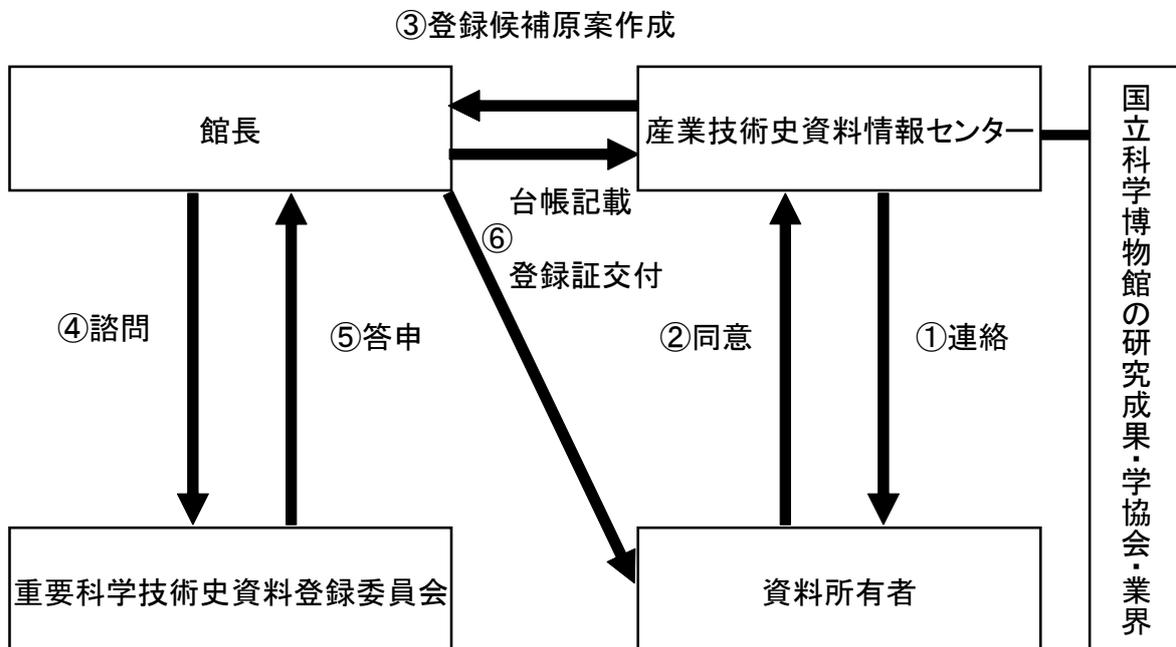
裏

記念盾





登録までの流れ



重要科学技術史資料登録委員会委員

大島まり	東京大学大学院情報学環／東京大学生産技術研究所	教授
小川明	一般社団法人 共同通信社	客員論説委員
川村恒明	公益財団法人 神奈川芸術文化財団	顧問
○ 末松安晴	公益財団法人 高柳健次郎財団	理事長
鈴木基之	東京大学	名誉教授
柘植綾夫	公益財団法人 科学技術国際交流センター	会長
寺西大三郎	一般財団法人 化学研究評価機構	顧問
橋本毅彦	東京大学大学院総合文化研究科	教授
原島文雄	首都大学東京	学長

○：委員長

平成 26 年 5 月現在



平成 20 年 2 月 8 日
館長裁定

○重要科学技術史資料の選定基準

- 一 科学技術（産業技術を含む。以下同じ。）の発達史上重要な成果を示し、次世代に継承していく上で重要な意義を持つもので、次の基準を満たすもの
 - イ 科学技術の発展の重要な側面及び段階を示すもの
 - ロ 国際的に見て日本の科学技術発展の独自性を示すもの
 - ハ 新たな科学技術分野の創造に寄与したもの
 - ニ 地域等の発展の観点から見て記念となるもの
 - ホ 試行錯誤、失敗の事例など科学技術の継承を図る上で重要な教育的価値を有すもの

- 二 国民生活、経済、社会、文化の在り方に顕著な影響を与えたもので、次の基準を満たすもの
 - イ 国民生活の発展、新たな生活様式の創出に顕著な役割を果たしたもの
 - ロ 日本経済の発展と国際的地位の向上に一時代を画するような顕著な貢献のあったもの
 - ハ 社会、文化と科学技術の関わりにおいて重要な事象を示すもの

FAX 送信票

9月2日（火）授与式出席の件

独立行政法人国立科学博物館産業技術史資料情報センター 行

To: FAX 029-853-8492

※手数料をおかけいたしますが、下記項目にご記入の上、
8月29日（金）までにFAXまたはE-mailにてご送信くださいますようお願い
申し上げます。

〔授与式取材者〕

貴社名 _____

ご芳名 _____ (計 人)

Email _____

TEL _____

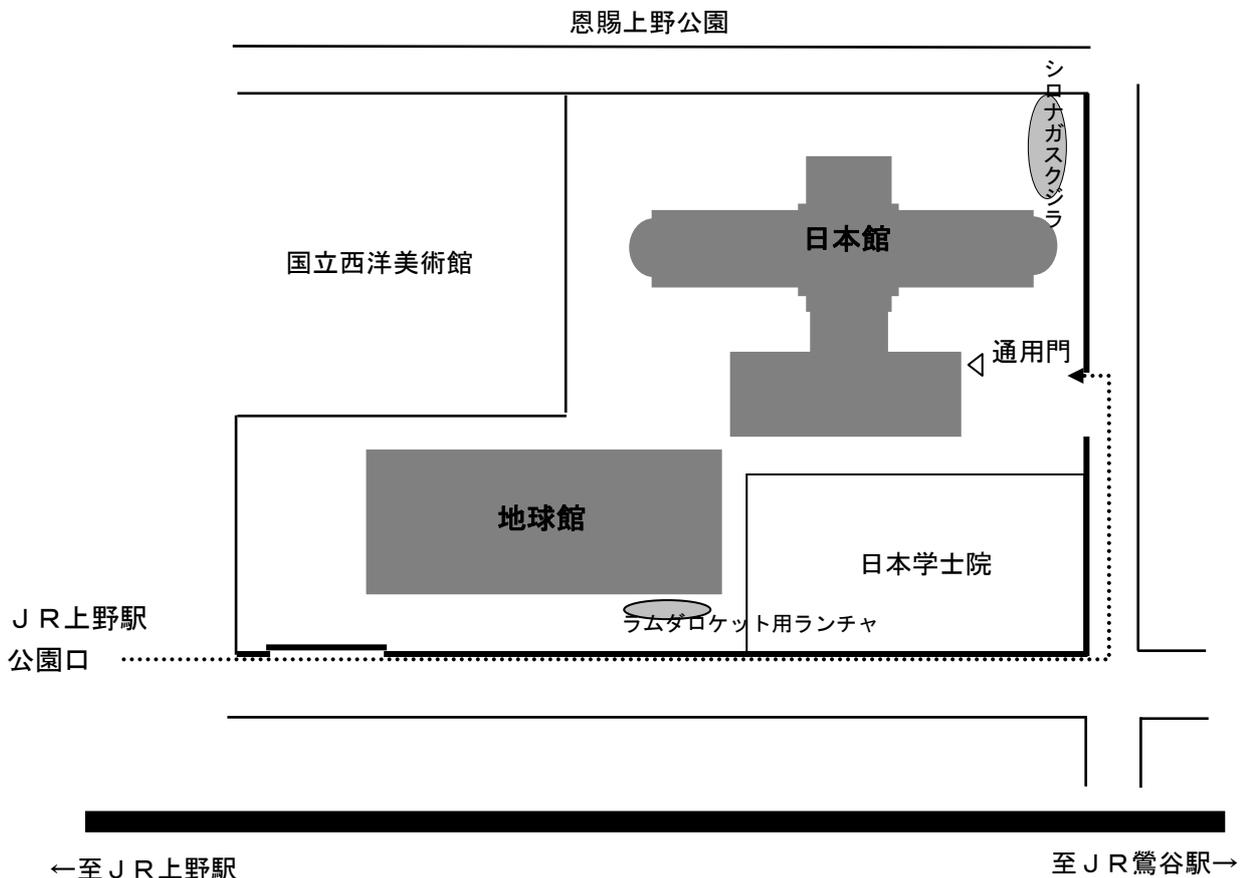
FAX _____

※今後、当センターのご案内をメール等で差し上げてもよろしいでしょうか？

はい いいえ

「重要科学技術史資料」登録証及び記念盾授与式 案内図

- 期 日 平成 26 年 9 月 2 日 (火)
- 会 場 国立科学博物館 日本館 2 階 講堂
【東京都台東区上野公園 7-20】
- 当日電話 03-3822-0111 (大代表)
- 次 第 13:45～ 受付
14:30 開式
15:30 閉式



【国立科学博物館までのアクセス】

- JR「上野」駅公園口から徒歩5分
- 東京メトロ銀座線・日比谷線「上野」駅から徒歩10分
- 京成線「京成上野」駅から徒歩10分
- ※駐車場の用意はございません。

日本の光学顕微鏡近代化の幕開け

登録番号	第 00184 号
名称 (型式等)	エム・カテラ (M & KATERA) (IV型)
所在地	東京都中央区
	サクラファインテックジャパン株式会社
所有者 (管理者)	サクラファインテックジャパン株式会社
製作者(社)	合資会社いわしや松本器械店：大正4年よりエム・カテラ光学製作所（寺田新太郎、加藤嘉吉、神藤新吉、松本福松）
製作年	1914年
初出年	1914年
選定理由	当時の先端であったドイツ製を模造し、良好な性能と安定した品質で量産され、商業的にも成功した光学顕微鏡である。日本の光学顕微鏡は、100年程の間で世界のトップレベルとなり、現在でも世界的に高い評価を受け、科学・医学・産業など様々な分野の発展に貢献している。M&KATERA顕微鏡の名称の由来となった製作者達は、M・松本福松はエム・カテラ光学製作所（現：サクラ精機）を、KA・加藤嘉吉と神藤新吉はカルニュー光学製作所（現：島津デバイス製造）を興し、TERA・寺田新太郎は山下長が創業した高千穂製作所（現：オリンパス）にてそれぞれ顕微鏡を製作し、国産顕微鏡の礎を作った。
登録基準	ーイー（科学技術の発展の重要な側面及び段階を示すもの）

公開・非公開	公開
写真	
その他参考となるべき事項	